

平成 29 年度 東京オリンピック・パラリンピック等に向けた
とちぎビジョン推進協議会
- 議事録要旨 -

1 日時 平成 30 年 3 月 28 日（水）15 時 30 分から 17 時 00 分まで

2 場所 宇都宮市昭和 1 丁目 1 - 38 栃木県公館大会議室

3 出席者

【委員】

福田富一会長、佐藤栄一委員（代理：鈴木光雄氏）、古口達也委員（代理：野澤敏光氏）、荒川政利委員（代理：橋本健一氏）、秋山幸男委員、太田照男委員、麦倉仁巳委員、大森宣暁委員、飯塚真玄委員、近藤真寿委員、高橋哲也委員、小林延年委員（代理：小林忠教氏）、石田朋靖委員、新井俊一委員（代理：善林景子氏）、小林辰興委員（代理：五家真佐江氏）、関口快流委員（代理：黒川辰美氏）、松下正直委員（代理：大山 明氏）、岸本卓也委員（代理：飯島一彦氏）、黒内和男委員

【県】

北村総合政策部長、沼尾総合政策部次長兼課長、高橋課長補佐（総括）、川上とちぎブランド戦略室長

■説明事項

- (1) ハンガリーに対する取組について
- (2) とちぎビジョンの推進について
- (3) 東京 2020 大会に向けた全国的な取組について
- (4) 東京 2020 大会聖火リレーについて

(1)～(4)の説明に対して、質問・意見等なし

■意見交換 ※敬称略

【福田会長】

・それでは、意見交換をお願いします。

【委員】

・ハンガリーとの交流について、子供たちが教育の場でハンガリーを知ることは、自分と違う文化をしっかりと学ぶ一つの良い機会になると思う。

例えば、ハンガリー選手団による事前キャンプが実施された際には、小中学校等の自由研究などでハンガリーを調べる活動があっても面白い。

【川上室長】

- ・競技によっては、市町が事前キャンプの受入れ主体となることから、子供たちの教育活動に繋がるよう市町に周知して参りたい。

【福田会長】

- ・佐野日本大学学園がハンガリーの高校との交流を希望していることから、ハンガリー大使館を通じて照会を行っている。
- ・これを機に若い世代が相互に交流を始めるという機運が盛り上がってきていると感じている。

【委員】

- ・ハンガリーの人達に栃木県を知ってもらうことも大切だが、県を代表してハンガリーの方々とは会うときは社交的に上手くやっていただきたい。
- ・資料で国際部長のナジ・ジグモンド氏の名前を見た際、ハンガリー動乱当時の首相であったナジ・イグレ氏を思い出した。
- ・ハンガリーは家族の名前が先にあり、個人の名前が後にくる順番が日本と同じである。また、非常に誇り高い民族である。
- ・ベルリンの壁を崩壊させる引き金を引いたのはハンガリーであり、ハンガリーがなかったらベルリンの壁は崩壊しなかった。
- ・ハンガリーはウクライナと国境が接していることから、現在はロシアとの関係で微妙な国際社会の位置にいる国である。
- ・県を代表してハンガリー関係者と会うときは、このような歴史的背景を知ったうえで話を深めてもらいたい。

【川上室長】

- ・これまで接してきたハンガリーの方々には、自国の歴史について自身の考えをしっかり持っていらした方が多いと感じている。今後交流を進める際には、歴史的背景も十分理解しながら進めていきたい。

【委員】

- ・東京 2020 競技大会の開催期間中は、訪日外国人だけでなく全国から多くの観光客が東京に来ると思われる。今年度大阪に栃木県の事務所を設置することから、訪

日外国人だけでなく、西日本から多くの観光客を県内に呼び込むこむ取組が必要である。

- ・健康寿命を伸ばすことは医療費の抑制にもつながる。オリンピックの機運醸成と合わせて、県民が体を動かす運動としてラジオ体操を県民運動で展開し、スポーツに親しむ機運を醸成することも面白いと思う。

【沼尾次長】

- ・大阪事務所を設置することは、本県ブランド力の向上、観光誘客、いちごなどをはじめとした農産物を知ってもらう絶好の機会と捉えている。
- ・オリンピックとその2年後に開催される国体を県民の健康増進につなげられるよう引き続き検討していきたい。

【委員】

- ・オリンピック開催時には県内にハンガリーの選手・関係者が多く宿泊すると思うが、ハンガリーの日常生活やハンガリーの文化など特徴的なことは旅館・ホテル関係者に知られていない。宿泊事業者向けにハンガリーの方々の理解促進を図る冊子があれば便利だと思う。

【川上室長】

- ・ハンガリー大使館の協力を得るとともに観光サイドと連携しながら資料等を作成していきたい。

【委員】

- ・多くの人に栃木に来ていただくとともに、県内と県外の交流を促進するためには交通の利便性が非常に重要。
- ・交通で重要なのは時間と費用である。期間限定でもいいが、例えば、鉄道事業者や高速道路事業者に時間とお金の面で利便性を高めてもらうよう働きかけることも必要だと思う。
- ・行政でも民間でもどちらでもよいが、県外から来る人の交通費を援助することで、来た人がそれ以上に県内にお金を落とす経済効果があると思うので、そういった点も検討されるといいと思う。

【沼尾次長】

- ・4月からDCが本格化するとともに、オリンピック期間中はインバウンドがさらに増加することが想定される。

- ・東京から北に延びる縦の交通はしっかりしているが、それ以外の県内の地方は交通手段がない部分もある。外国の方々は日本の観光客と異なり、日本の文化に親しむために様々な動き方もするので、DCとあわせて検討していきたい。

【委員】

- ・全ての世代の方々がスポーツに参加することが大切である。特に高齢者の方が参加していただければ健康長寿づくりにつながると思う。
- ・外国人が来日した時の医療について多くの問題がある。言語の問題、通訳の問題、医療機関のかかり方、場所、外国の方が医療保険に入っているかどうかなど様々な問題がある。各医療機関で通訳ができる体制が必要であるが、こういった問題に対処できるパンフレットを作成するなど、外国人の医療体制を整えてもらえればと思う。
- ・医師会の中で訪日外国人の受入態勢について話し合っているが、県内で対応できる病院は限られている。医療体制が整っていないとダメな国だと思われるので、そのようなことがないようにしていただきたい。

【沼尾次長】

- ・外国人の医療の問題について、近年インバウンドの人数も飛躍的に増えているので保健福祉部や他県と連携しながら対処していきたい。

【委員】

- ・オリンピック大会直前のキャンプで交流事業を行うことは時期的に難しいのではないかな。
- ・陸上に限らず他の競技についても誘致は考えているのか。
競技が多いとスポーツの振興にもつながるし、子供たちに夢と希望を与えられると思う。

【川上室長】

- ・事前キャンプの際の住民との交流について、メダルを獲得できるような一流の選手の練習風景を見てもらうことだけでもスポーツの振興や子供たちに夢を与える効果につながると思う。
- ・ハンガリーの競技団体と交渉する中で、住民との交流について否定的な意見は出ていない。
- ・2020年だけでなく2018年、2019年にも様々な形で来県する機会も想定されることから、そのような機会を活用しながら最大限交流を図っていきたい。

【福田会長】

- ・他に意見が無ければここで意見交換を終了したいと思います。
- ・先ほどハンガリーについて知ることが大切との意見がありましたが、ハンガリーの食べられる国宝であるマンガリツツァ豚の料理が宇都宮の料理店でもメニューになっている。経済的な面でハンガリーを知る機会が少しずつできてきている。
- ・私がハンガリーを訪問した際、自国を誇りに思う国民性が高く感じられた。オリンピック委員会が設立されたのは世界で6番目に古いこと、累積獲得メダル数は世界で8位であるなど。食や歴史などを含めて県民のみなさんにハンガリーを知ってもらおう努力をしていきたい。
- ・現在整備を進めている総合運動公園の新スタジアムは県民が利用する施設であり、県民の健康づくりの場として、また健康づくりのための運動の動機づけとして利用してもらいたい。
- ・委員の皆様と緊密に連携しながらとちぎビジョンの実現に向けて戦略的に取り組んで参りたい。

〔了〕